

# 囲碁マナーの基本マニュアル

対局前	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 「<sup>かみざ</sup>上座・<sup>しもざ</sup>下座」の区別がある対局場では、棋力の上位者が上座に座る。なお、同位者の場合は、年長者が上座に座る。</li> <li>② 下座の人が、乾いた布で盤面をぬぐう。</li> <li>③ 互い先の場合は、上座ないし年長者が「ニギリ」を行う。ニギリとは上座の人が白石を適宜つかみ盤上に伏せる。もう一方の人が黒石を奇数(1個)または偶数(2個)を盤上に置く。そして伏せた手を開いた白石の数の偶数・奇数が盤上に置いた黒石の偶数・奇数と合った場合、白石を握った人が白、黒石を置いた人が黒となる。合わなかった場合は白石を握った人が黒、黒石を置いた人が白となる。</li> <li>④ 「コミ」は通常、「先番(黒番)6目半」と定める。対局開始前、あらかじめ「コミ・競技時間・秒読みの有無」などを確認すること。</li> <li>⑤ 「互先」の黒の第1手は、原則として「右上隅」方面に着手する。</li> <li>⑥ 「置碁」の置き石の星への配置及び置き順は以下の通り。              1 右上 ⇒ 2 左下 ⇒ 3 右下 ⇒ 4 左上 ⇒ 5 右辺 ⇒ 6 左辺 ⇒              7 上辺 ⇒ 8 下辺 ⇒ 9 天元              例えば2子局は上記2まで、6子局は上記6まで。なお、5子局は上記4の次は天元、7子局は上記6の次は天元です。</li> </ul>
対局中	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 打つ場所を決めたのち、碁笥から碁石を一子だけ取り出し、盤上に着手する。 (打つ場所を決める前に、碁笥に手を入れたり、石を持たぬこと)</li> <li>② 着手後の石の移動(「打ち直し」「待った」)は、即「反則負け」となる。</li> <li>③ 無用の言葉を発しないこと — 相手や周囲に不快感を与えてはならない。</li> <li>④ 手洗いなどで一時的に中座する場合は、自分の手番を打ったのち相手に軽く会釈をして静かに退席する(座席に戻るときも軽く会釈する)。</li> <li>⑤ 対局時間が定められていない場合は、極端な長考・早打ちは慎むこと。</li> <li>⑥ 対局時計は丁寧に扱うこと。対局時計を置く位置は白を持った人が左右どちらに置くか決める。対局時計のボタンを押すのは碁石を打った手で行う。</li> <li>⑦ 「出石」(碁笥に相手の石が混ざっている場合)が見つければ、速やかに相手に戻す。</li> <li>⑧ 形成が大差でまったく挽回が不可能な局面では、対局途中でも「投了」できる。</li> <li>⑨ 大差の碁でも最後まで打ち、ダメ詰めをしたのちは「投了」せず、作って数えること。</li> <li>⑩ 全局面の「形成判断」は、少なくとも3回以上は行うこと。</li> <li>⑪ 対局中に石がずれたら直ちに元へ戻す。両対局者が「合意」しない場合は「両負け」となる。</li> </ul>
終局後	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 終局したのちは、それぞれ「相手側の陣地の整地」を行う。できるだけ10目単位と端数目(1~9目)に整地することを心がける。</li> <li>② 対局が終局して勝敗を確認したら、静かに碁石を碁笥におさめ碁笥を盤上の中央に戻し一礼する。</li> <li>③ 互いに「終局の確認」を同意してダメを詰めがあったのち、もし「手」が生じても認められない。 * 漫然とダメ詰めしないこと。</li> <li>④ 勝敗の確認後に「アゲハマ」「出石」が見つかったても無効である。</li> <li>⑤ 終局後の検討は、勝者は謙虚な態度で行い、敗者はなごやかに行う。</li> <li>⑥ 盤上には、碁笥・碁石以外は置かないこと。また、盤上で書き物をしたり、食事をしてはならない。</li> </ul>

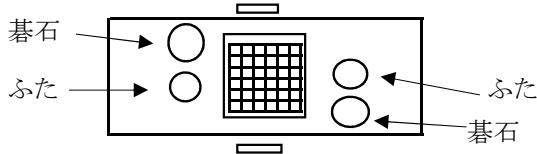
# 囲碁のマナー

対局の相手に不愉快な気持ちを与えず、勝負は盤上でフェアに競うということが対局マナーの基本です。常に相手を敬うという気持ちが大切です

## 1 対局前

1. 対局前には「おねがいします」 終わったら「ありがとうございました」と挨拶します
2. 席に着き挨拶が終わったら 碁盤、碁石を図のようにならべます。

利き手側に碁笥を置き ふたをその向こうにおきます ⇒アゲハマが相手に見えやすい ということの他に 取った石を間違っ打ってしまうのを防ぐためです 取った石を間違っ打ったら負けになります



## 2 対局

1. 級が上の方が白を持ちます。
2. 級が同じときは白黒を決めるために ‘にぎり’ をします。この時白石をもって握るのは目上の人です 白黒の決め方は以下のとおりです。  
目上の方が白石を適宜つかみ盤上に伏せる。もう一方の方が黒石を奇数(1個)または偶数(2個)を盤上に置く、そして伏せた手を開いた白石の数の偶数・奇数が盤上に置いた黒石の偶数・奇数と合った場合、白石を握った人が白、黒石を置いた人が黒となる。合わなかった場合は白石を握った人が黒、黒石を置いた人が白となる。

### 3. 対局中してはいけない事

- ・盤上で石を持ってウロウロさせてはいけません ⇒ 打つところが決まってから石を持ちます
- ・相手が打ち終わってから打ちます ⇒ 相手が石を取っている時は取り終るまで待ちます
- ・線と線の交点にきちんと打ちます ⇒ 石がずれていると相手にわかりにくくよくありません
- ・盤の上を指でなぞったりしてはいけません ⇒ 盤上は常に相手にも見えるようにします
- ・碁笥に手を入れてガチャガチャとさせてはいけません ⇒ うるさくて対局している人の迷惑になります
- ・一度置いた石は動かしてはいけません ⇒ 反則です
- ・おしゃべりはしない ⇒ 相手の思考を妨げます

4. 手洗い等で席を立つ時は 自分が打った後 相手に会釈して退席します  
戻った時も会釈するか「失礼しました」等声をかけます
5. 極端な長考、極端な早打ちは慎みましよう
6. 明らかに負けている時は途中で「負けました」と言って投了します
7. 最後の一目まで打ったら たとえ大差で負けていてもきちんと数えます。
8. 対局中石がずれたら直ちに元に戻します。この時両者が合意しないときは「両負け」になります  
⇒盤上に石を落としてしたり 服の袖等で石をずらす事のないよう気をつけるようにします
9. 地を数え終わったらどちらが何目勝ったか確認します ⇒ 確認後アゲハマ等が見つかったも無効です

## 3 終局後

1. 終局後、相手の地を数えます
2. 勝敗の確認後 盤上で白石と黒石を分けます。碁笥に戻すのは自分の石だけにします  
(相手の石を碁笥に入れるのを手伝う必要はありません)
3. 勝っても大喜びしたりしないで相手に感謝の気持ちを持ち 負けた人は勝者をたたえる気持ちを持ちます

## 4 その他

- ・対局中 肘をついたり、足を組んだりするのはよくありません
- ・盤上で書き物をしたり 碁石以外のものを置いたりしてはいけません
- ・対局を観戦する立場になった時、決して口を出さないのもマナーです